

現在、アカマツ林調査世話役を担当している中嶋です。会員から会員へとつないでいく本リレーコラム。前号で執筆された篠原さんからご指名を受けましたので、今回のコラムを担当させていただきます。

私が森会へ入会して8年ほどが経ったかと思いますが、入会したころや森会に入っ
て感じたことや経験したことなどを少し振り返ってみたいと思います。

森会に入る少し前、まだ大学生だった私は、宮崎の大学で自然環境や植物のことを学び、毎日のように山の中で木々を見つめて過ごしていました。(ちなみに鎌田代表は同じ大学の先輩です。)その後、大学を卒業し、福岡へ帰省しましたが、就職活動やバイトに追われ、自然との関わりが薄れていくなかで、次第に福岡でも自然に触れ合う機会を持ちたいと強く思うようになっていました。

そんな時、福岡市の広報誌で森会の活動案内のお知らせを目にし、思い切って応募したのが森会へ入会するきっかけとなりました。その時の活動は良く思い出せませんが、活動後の入会案内で自分が入会の意思を伝えた時の会員の皆さんの笑顔と歓声が強く印象に残っています。

入会後は初めてのことばかりでしたが、ノコやカマの使い方から道具の手入れ、伐木方法などいつも先輩会員の皆さんから丁寧に教えてもらいながら徐々に身に付けていくことができました。はじめのころは除伐対象とはいえ、長年生きてきた常緑樹を

伐木することに心苦しさを覚えることもありましたが、しかし、うん・え～会や先輩方の話を通して、カブトムシの森とアカマツ林の整備の目的や計画、除伐の必要性への理解を深めていくうちに徐々に考え方も変わっていきました。その後は「他の生き物たちのため許しておくれ。安全に倒れてね。」という気持ちを込めながら除伐作業を進めてきました。今では会員の皆さんの活動の積み重ねにより、自分が入会した時と比べてもはるかに明るい林になったことを一目で実感できます。

図鑑でしか見たことのなかったシリブカガシを発見したり、大きなスズメバチに頭の周りをぐるぐると飛び回られたり(ジツとして動かないの鉄則で乗り切りました)と、たくさんの新たな発見や経験ができたこと、高校生から先輩方の世代まで幅広い世代の会員の方とのコミュニケーションのなかでいろいろなことを学べたり、油山の自然の中でいい汗をかいてリフレッシュできたりと、森会には本当にたくさんの魅力があります。

最近は仕事で活動に参加できないことも多いですが、入会して森会用に購入したいつものマイ作業服を着てまた油山に行こうと思います。これから春本番で気持ちのいい季節。たくさんの会員でにぎわいのある活動となればよいなと思います。

(次回のコラムは森会とアカマツ調査の先輩柴戸さんをお願いしたいと思います。)